

◎熱帯林業講座◎

シンガポールに分布し、幼虫は主として *Artocarpus* と *Ficus* の葉を加害し、マンゴにもつく。*Psalis pennatula* Fabricius はケニア、ウガンダ、インド、マラヤに分布する。幼虫は普通稲や砂糖キビにつくが、*Shorea robusta*, チークの葉も加害する。雌は非常に多くの卵を産み、寄主上で蛹化する。ジャワには普通で、卵から成虫になるまで7週間かかる。

図書紹介

◎熱帯における栽培林業 (EVANS, Julian : Plantation Forestry in the Tropics—Tree planting for industrial, social, environmental, and agroforestry purposes— 2nd edition. 1992. 403 pp. Clarendon Press, Oxford. 紙装版 ¥7,500)

1982年に出版された同名の書の第2版である。初版が出てからの10年間で、熱帯地域における人工造林環境や実態が大幅に変化した。とりわけ国連の熱帯林行動計画(TFAP)の拡大や社会林業プログラムの広範な実践、非政府関連団体(NGO)の植林行動への大幅な参加拡大などが顕著である。また、樹種に関する科学的知見も広く深くなっている。本書はこれらを受けて、①今日的な先端的情報を取り込むこと、②新たに500編以上の利用可能で信頼できる文献情報を加えること、③各地での多くの成果をバランスよくまとめること、を意図した改編を行っている。章建ては旧版に準拠したスタイルとしているが、大幅な書き換えや書き加えが行われている部分もある。*Acacia albida*→*Faidherbia albida*, *Albizia falcataria*→*Paraserianthes falcataria*のように学名が変わったものもあり、それらも配慮されている。

I 概論, II 立地や社会的経済的要因と発展の人工林造成のプラン, III 人工林における造林技術, IV 樹木植栽と人工林林業(地域の発展, 土壌保全, 森林回復, 環境配慮)の4章に分かれており、これらを細分化した22の節では、具体的な林業の取り組みが、豊富な実例とともに述べられている。個々の樹種の造林上の特性や取り扱い技術等が十分に述べられているわけではないが、一般的な注意点や取り扱いの実際についての記述は丁寧であり、苗畑作業から植え付け、その後の保育作業、さらには収穫に至るまでの一連の作業が解説されている。しかし、最近、フタバガキ科樹種に代表されるその地の固有樹種の人工植栽による森林化が各地で展開されているが、これについての記述はまだまだである。とはいえ、今後、熱帯地域における造林活動は一層活発化すると思われるので、そのための入門的教科書として格好のものといえる。(桜井尚武)